

臨床入門

(Introduction to Clinical Medicine)

【責任者/担当者】

〔医学教育センター〕 蓮池 由起子 医学教育センター長、庄司 拓仁 講師

【担当者】

〔医学教育センター〕 今西 宏安 准教授、正木 充 非常勤講師、各教員

〔医学教育学〕 常見 幸 准教授

〔臨床教育統括センター〕 各教員

〔放射線医学〕 山門 亨一郎 主任教授、児玉 大志 助教

〔放射線医療センター〕 河中 祐介 助教

〔臨床検査医学〕 宮崎 彩子 准教授

〔超音波センター〕 西村 貴士 講師

〔心理学〕 室井 みや 教授

【目的】

臨床科目の学修に際して、解剖生理から病態をどう考えるか、検査データの解釈の仕方や、画像診断など、基本的知識がないと理解が困難なことがある。本科目は臨床科目を学ぶための、最低限必要な知識を習得する。また主要な疾患についての疾病概念を学ぶ。

【科目キーワード】

「臨床医学(Clinical Medicine)」

【到達目標(アウトカム)】

- ☐ モデルコアカリキュラムなど医学教育の質保証の概略を理解する。
- ☐ 解剖生理から主要な病態を概説できる。
- ☐ 主訴、病歴など診察の基本的事項を説明できる。
- ☐ 基本的な医学用語の意味を説明できる。
- ☐ 主要な血液検査や尿検査の臨床的意義を概説できる。
- ☐ 放射線・超音波検査の原理を概説し、典型的な異常を説明できる。
- ☐ 医学統計学の基礎を学ぶ。
- ☐ 障がいのある人とのコミュニケーションについて説明できる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・プロフェッショナリズムを理解できる。
- ・ICTを活用し、疑問点を解決するための情報を収集して評価することができる。
- ・検査や基本的手技を知っている。
- ・人体構造・機能を理解している。

【概要ならびに履修方法】

本科目は臨床教育に入る前段階として知識、態度、技能、そして精神面からの準備を目的とするもので、内容は臨床医学入門の他、行動学を含む。

なお、この科目は医師となる資質を涵養し、その成長を評価するための科目である(Fitness to Practice)。この科目外であっても医学生に相応しくない行動、態度があると思われた場合は、教務委員会等における審議を経て、受講不可もしくは遡って不合格とする場合がある。また初回講義など出席が必須の時限もあるので注意すること。

【準備学修ならびに事後学修に要する時間】

前日までに1コマにつき30分程度は読んでおくこと。

【成績の評価方法・基準】

- ・試験(100%)で評価を行うが、出欠や授業中の態度なども加味する場合もある。
- ・再試験は1回のみ行う。補助試験は行わない。
- ・出席が2/3未満の者は受験できない。不正を行った者や不在だった者は出席と認めない。

【学生への助言】

講師の話を真摯に傾聴し、積極的に質問すること。

【フィードバック方針】

多くの講師によるオムニバス形式のため、講義内容に対する質問があれば個別に対応する。

【オフィスアワー】

多くの講師によるオムニバス形式のため設定しない。

【受講のルール、注意事項、その他】

出欠管理は厳格にするので、真摯な態度で受講すること。

【教科書】

各担当教員が取り上げる書籍

【参考書】

各担当教員が取り上げる書籍

【連絡先】

教育研究棟 3 階 医学教育センター